

形式概念分析

定義 1 三つ組 (G, M, I) が [形式] 文脈 ([formal] context) であるとは, G と M が集合であり, I が G と M の間の関係, すなわち $I \subset G \times M$ であることをいう. G の要素を対象 (object), M の要素を属性 (attribute) と呼ぶ. $(g, m) \in I$ を $g I m$ と書き, 「対象 g は属性 m を持つ」を意味するものとする. I は付随関係 (incidence relation) と呼ばれる.

G と M が有限集合のとき, 文脈 (G, M, I) は, $|G|$ 行 $|M|$ 列の表で, $g I m$ のとき行 g 列 m のセルに \times を記入することにより表現する. この表を文脈表 (context table) と呼ぶ.

例 1 $G = \{1, 2, 3, 4\}$, $M = \{a, b, c, d, e\}$, $I = \{(1, a), (1, c), (2, a), (2, c), (3, b), (3, c), (4, d)\}$ のとき, 文脈 (G, M, I) は右の文脈表で表される.

	a	b	c	d	e
1	\times		\times		
2	\times		\times		
3		\times	\times		
4				\times	

定義 2 $A \subset G$ と $B \subset M$ に対して,

$$A' \stackrel{\text{def}}{=} \{m \in M \mid \text{任意の } g \in A \text{ に対して } g I m\},$$

$$B' \stackrel{\text{def}}{=} \{g \in G \mid \text{任意の } m \in B \text{ に対して } g I m\}$$

とおく. この二つの写像 $\prime: \mathcal{P}(G) \rightarrow \mathcal{P}(M)$, $\prime: \mathcal{P}(M) \rightarrow \mathcal{P}(G)$ は導出作用素 (derivation operator) または導出演算子と呼ばれる

例 2 $\emptyset \subset G$ に対して $\emptyset' = M$ であり, $\emptyset \subset M$ に対して $\emptyset' = G$ である.

命題 1 (G, M, I) を文脈, $A, A_1, A_2 \subset G$ とし, $B, B_1, B_2 \subset M$ とする.

- (i) $A_1 \subset A_2 \Rightarrow A_2' \subset A_1'$, $B_1 \subset B_2 \Rightarrow B_2' \subset B_1'$,
- (ii) $A \subset A''$, $B \subset B''$,
- (iii) $A''' = A'$, $B''' = B'$,
- (iv) $A \subset B' \Leftrightarrow B \subset A' \Leftrightarrow A \times B \subset I$.

証明 (i), (ii), (iii) 資料「束」補題3で証明済み.

(iv) 導出作用素 \prime の定義から明らかに, $A \subset B' \Leftrightarrow A \times B \subset I$ 及び $B \subset A' \Leftrightarrow A \times B \subset I$ である. ■

定義 3 $A \subset G, B \subset M$ のとき, 対 (A, B) が文脈 (G, M, I) の [形式] 概念 ([formal] concept) であるとは, $A' = B$ かつ $B' = A$ であることをいう. (A, B) が概念のとき, A を外延 (extent), B を内包 (intent) と呼ぶ. 文脈 $\mathbb{K} = (G, M, I)$ の概念全体の集合を $\mathfrak{B}(\mathbb{K})$ または $\mathfrak{B}(G, M, I)$ で表す.

命題 2 (G, M, I) を文脈とするとき,

$$(i) \mathfrak{B}(G, M, I) = \{(A'', A') \mid A \subset G\} = \{(B', B'') \mid B \subset M\},$$

(ii) (A, B) が概念 $\Leftrightarrow A \times B \subset I$ かつ

$$[A \subset C, B \subset D, C \times D \subset I \Rightarrow A = C \text{ かつ } B = D]$$

証明 (i) 形式概念の定義と命題1 (iii) より明らか.

(ii) (\Rightarrow) (A, B) は概念であるから $A = B'$ なので, 命題1 (iv) より $A \times B \subset I$ である. $A \subset C, B \subset D, C \times D \subset I$ とし, $g \in C$ とする. 任意の $m \in B$ について, 仮定 $C \times D \subset I$ と命題1 (iv) より $m \in B \subset D \subset C'$ なので, $g I m$ となるから, $g \in B' = A$ である. よって, $C \subset A$ なので $A = C$ となる. 同様に $B = D$ も言える.

(\Leftarrow) 命題1 (iv) より $A \times B \subset I$ から $B \subset A'$ である. このことと $A \subset A$ であること, 及び命題1 (ii), (iv) より $A \times A' \subset I$ であることから, 仮定より $B = A'$ である. 同様に $A = B'$ も言えるので, (A, B) は概念である. ■

(G, M, I) が文脈のとき, 命題1 (ii) より $G'' = G, M'' = M$ なので, 命題2 (i) から (G, G') と (M', M) が概念であることが解る.

例 3 例1の場合, $\mathfrak{B}(G, M, I)$ は次ページ下の左図に現れる6個の概念からなる.

概念の定義と命題1 (i) より, (A_1, B_1) と (A_2, B_2) が概念のとき, $A_1 \subset A_2$ と $B_1 \supset B_2$ は同値である.

定義 4 概念 (A_1, B_1) と (A_2, B_2) に対して, $A_1 \subset A_2$ のとき (または同じことだが, $B_1 \supset B_2$ のとき) $(A_1, B_1) \leq (A_2, B_2)$ と書く. 関係 \leq を, 概念の [階層] 順序 ([hierarchical] order) と呼ぶ. $(A_1, B_1) \leq (A_2, B_2)$ のとき, (A_1, B_1) を (A_2, B_2) の下位概念 (subconcept) と呼び, (A_2, B_2) を (A_1, B_1) の上位概念 (superconcept) と呼ぶ.

命題 3 階層順序 \leq は $\mathfrak{B}(G, M, I)$ 上の半順序関係であり, $\mathfrak{B}(G, M, I) = (\mathfrak{B}(G, M, I), \leq)$ は束になる. $\mathfrak{B}(G, M, I)$ の結び \vee と交わり \wedge は下式で与えられる.

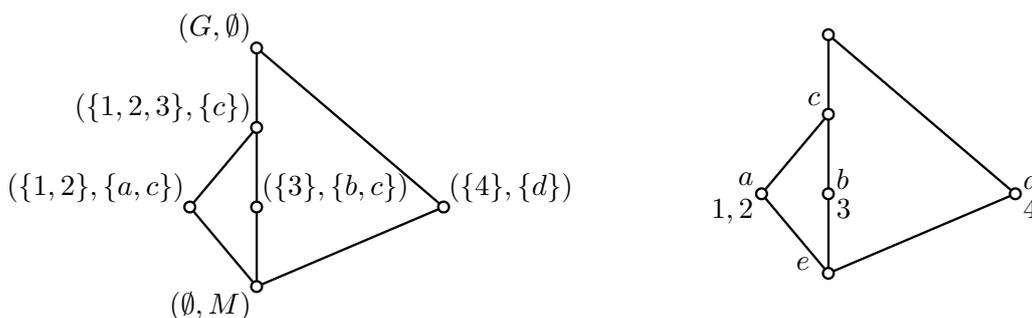
$$(A_1, B_1) \vee (A_2, B_2) = ((A_1 \cup A_2)'', B_1 \cap B_2),$$

$$(A_1, B_1) \wedge (A_2, B_2) = (A_1 \cap A_2, (B_1 \cup B_2)'').$$

証明 資料「束」例 7 と例 18 より明らか. ■

$\mathfrak{B}(G, M, I) = (\mathfrak{B}(G, M, I), \leq)$ を概念束 (concept lattice) と呼ぶ. 資料「束」例 7 と例 18 より, $\mathfrak{B}(G, M, I)$ は, $(\mathfrak{B}_G, \subset)$ 及び $(\mathfrak{B}_M, \supset)$ と同形である (\mathfrak{B}_G と \mathfrak{B}_M の定義は資料「束」例 7 を参照).

例 4 例 1 の文脈から作られる概念束の Hasse 図は下の左図のようになる.



定義 5 対象 $g \in G$ に対して $g' \stackrel{\text{def}}{=} \{g\}' = \{m \in M \mid g I m\}$ と書き, 写像 $\gamma : G \rightarrow \mathfrak{B}(G, M, I)$ を $\gamma g = \gamma(g) \stackrel{\text{def}}{=} (g'', g')$ と定め, γg を g に対応する対象概念と呼ぶ. 同様に, 属性 $m \in M$ に対して $m' \stackrel{\text{def}}{=} \{m\}' = \{g \in G \mid g I m\}$ と書き, 写像 $\mu : M \rightarrow \mathfrak{B}(G, M, I)$ を $\mu m = \mu(m) \stackrel{\text{def}}{=} (m', m'')$ と定め, μm を m に対応する属性概念と呼ぶ.

例 5 例1の文脈から作られる概念束に γ と μ の像を書き込んだものは3ページ下の右図のようになる（通常，図には写像 γ や μ の記号は書かない；例えば図中の a は μa のことである）。

命題 4 (i) 任意の $g \in G, m \in M$ に対し，

$$g I m \iff \gamma g \leq \mu m.$$

(ii) 概念 (A, B) に対して，

$$\begin{aligned} A &= \{g \in G \mid \gamma g \leq (A, B)\}, \\ B &= \{m \in M \mid (A, B) \leq \mu m\}. \end{aligned}$$

証明 (i) (\Rightarrow) $g I m$ とする。このとき， $m \in g'$ である。 $g_0 \in g''$ とすると，任意の $m_0 \in g'$ に対して $g_0 I m_0$ なので， $m \in g'$ より $g_0 I m$ となるから， $g_0 \in m'$ である。よって， $g'' \subset m'$ となるので， $\gamma g = (g'', g') \leq (m', m'') = \mu m$ である。

(\Leftarrow) $(g'', g') = \gamma g \leq \mu m = (m', m'')$ より， $g'' \subset m'$ である。命題1 (ii) から $g \in \{g\} \subset \{g\}'' = g''$ なので，これと $g'' \subset m'$ より $g \in m'$ となる。よって， $g I m$ である。

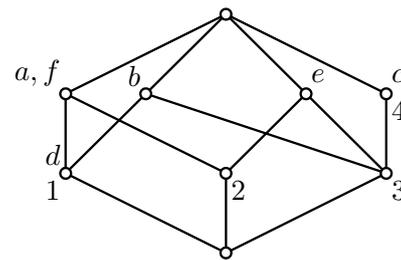
(ii) 第1式を示す。 $g \in A$ とすると， $\{g\} \subset A$ だから，命題1 (i) と A が外延であることより $g'' \subset A'' = A$ となるので， $\gamma g = (g'', g') \leq (A, B)$ である。よって， $A \subset \{g \in G \mid \gamma g \leq (A, B)\}$ である。逆に， $(g'', g') = \gamma g \leq (A, B)$ とすると $g \in g'' \subset A$ なので， $A \supset \{g \in G \mid \gamma g \leq (A, B)\}$ である。以上から $A = \{g \in G \mid \gamma g \leq (A, B)\}$ となる。第2式も同様に導かれる。 ■

問 1 右の文脈について、3 ページ下の左図と右図に対応する図をそれぞれ描け。

	<i>a</i>	<i>b</i>	<i>c</i>	<i>d</i>
1		×	×	×
2	×	×		×
3			×	×

問 2 1, 2, 3, 4 を対象とし, *a*, *b*, *c*, *d*, *e*, *f* を属性とする右の概念束について, 下の問に答えよ。

- (1) 3 ページ下の左図に対応する図を描け。
- (2) 文脈表を書け。



参考文献：

鈴木治, 室伏俊明著：形式概念分析—入門・支援ソフト・応用—, 知能と情報 (日本知能情報ファジィ学会誌), vol. 19, no. 2 (2007) pp. 103–142.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsoft/19/2/19_103/_article/-char/ja

FCA 支援ソフト Concept Explorer

<http://prdownloads.sourceforge.net/conexp/>

http://osdn.jp/projects/sfnet_conexp/